

「九条の会」

2014年11月17日

10年前、作家の大江健三郎氏や亡くなった小田実氏など、9名の方が「九条の会」を立ち上げ、憲法9条を守ろうと呼びかけた。呼びかけに応え、現在、全国に7,500もの「九条の会」が、それぞれの地域で活動している。かつて「ベ平連」は大きな市民運動を展開したが、「九条の会」は日本では初めての広範な市民運動として広がっている。私は「港南区九条の会」と「港南台九条の会」のメンバーに加わっている。先日、根岸線沿線にある「九条の会」が連携して、宣伝活動をした。それを「日本ジャーナリスト会議」の新聞に掲載したいと報告記事を求められた。下記はその報告である。

「戦争する国ゴメン」— 点から線へ新たな試み

根岸線沿線9条の会、5地域がリレー宣伝活動

10月4日から毎週土曜日の午後2時～3時、4週連続、根岸線沿線の5つの地域の9条の会は、新杉田駅、洋光台駅、港南台駅、大船駅前で行った。毎回、30名ほどが集まった。「戦争する国ゴメン」「九条は世界の宝」「安倍内閣は退陣せよ」— 色とりどりの横断幕やゼッケンを掲げ、チラシ配り、署名活動、リレートークをした。最後の大会では80名ほどのパレードをし、道行く人々に「戦争をする国にするな」と訴えた。

これまで、沿線各地域の九条の会は、それぞれが集会を開き、また駅頭で宣伝活動をしているが、共同行動は初めてである。多くのメンバーの参加を得て、力強い活動ができ、互いに励まされ、意気があがった。そして何より、以前と違ったことは、人々の反応が良かったことである。安倍政権の横暴なやり方に国民は危機感を持っていることを身近に受け止めることができた。3つの駅前（大船を除く）で1300枚くらいのチラシを配り、70筆ほどの署名が集まった。リレートークに聞き入る人たちも多いた。「九条」が「ノーベル平和賞」にノミネートされたことも大きなインパクトになっている。

今回の根岸線沿線九条の会の共同宣伝活動は、「九条の会」事務局による呼びかけ「全国統一行動月間」に呼応し、沿線の5つの「九条の会」が中心になり、数回の連絡会で準備を進め、横浜市内の「九条の会」のメンバーや一般の方々にも協力を得て成功を収めた。

「九条の会」は上からの指令や動員のない「草の根」の活動である。日本の社会で起こった全国規模の画期的な市民運動である。今回の共同活動で、点が線につながる経験をした。これから、線から面に広がる活動を展開する時に来ている。各地で行われている「九条の会」の集会は入り切れないほどの盛会である。11月24日（月）に行われる日比谷公会堂での大規模集会とパレードを盛大に成功させたい。

(秋吉隆雄・牧師・横浜市港南区在住)

10月13日に行われた「今こそ9条 in 川崎」の集会には会場に入り切れないほどの人が集まった、10月26日の横浜公園での「集団的自衛権にNO!」の集会には4,000人を超す人々が集まった。憲法に従い、平和を守ろうとする国民的な盛り上がりがあると実感した。平和は与えられるものではなく、市民の力で作りあげていくものである。韓国の軍政下時代、民主化を求める人々は「民主力量」と言った。市民が民主化、平和を実現するために、確かな「力量」を持ち、それを現す時である。